

宮田 篤 (MIYATA, Atsushi), 教授

1. 教育の責任 (何をやっているのか)

科目		領域		位置づけ	開講時期			
					1 前	1 後	2 前	2 後
キャリアプランニング(食)	演習	コモンベシックス	キャリア設計	卒業必修		○		
		秘書士科目	領域 1	秘書士選択				
キャリアプランニング(幼)	演習	コモンベシックス	キャリア設計	卒業必修			○	
インターンシップ A	実習	コモンベシックス	キャリア設計		集中			
		秘書士科目	領域 1	秘書士選択				
インターンシップ B	実習	コモンベシックス	キャリア設計			集中		
研究活動の基礎 *1	演習	コモンベシックス	探究の基礎	卒業必修		○		
				秘書士選択				
人間と文学	講義	リベラルアーツ	人間の探究			○		○
特別研究 *1	演習	専門科目	卒業研究	卒業必修			○	○
				秘書士選択				
秘書学概論 *2	講義	秘書士科目	領域 3	秘書士必修	○			
ビジネス文書	講義	秘書士科目	領域 2	秘書士選択		○		
秘書実務 *2	演習	秘書士科目	領域 2	秘書士必修			○	○

*1 複数担当者による科目

*2 経営法学部(上級秘書士履修者)との合同開講科目

- 1) キャリア科目担当者として、学生の自己理解・自己分析・自己表現の向上に努めている。
対学生だけでなく教職員間、対外部キャリア支援スタッフ、対企業、対卒業生と相互理解のための連携を図るコーディネータ、ネゴシエータ役を担っている
- 2) インターンシップについては 2018 年度における単位化開始、および 2019 年度からさらに改変を伴う中でのシラバス修正、新規受入先開拓、学科内運営等の整備・修正を行った。2019 年度から Teams によるファイル管理、学生指導、連絡全般において利用を開始したが、2021 年度には事務局を含めた運用が可能となった。「インターンシップ A」を秘書士必修科目とした効果については現時点ではできていない。秘書士履修者自体が減少傾向にあり、授業の効果なのか学生個々の資質によるものなのかの判断は難しい
- 3) 教養科目の「人間と文学」は自分自身の学生時代の専門領域でもあるため、最も情熱を注げる科目であると同時に、キャリア科目よりはるかに受講学生が自分自身と向き合うための科目ではないかと思っている。この科目の短期大学の受講者は決して多くはないものの(2024 年度は学院大学 103 名に対し短期大学 2 名)、専門職の免許・資格取得に明け暮れ時間制約の多い短期大学生に、自覚する世界観と未来像の体感につながることを目指したい

2. 教育の理念 (なぜやっているのか)

- 1) 「相手に合ったコミュニケーションをとることができる栄養士」を育てることを目指している
- 2) 最終的には、学生が教員の助言や指導を離れ、独力で課題解決を実現するための想像力、判断力、創造力を持った「おとな」に成長することを目指す
- 3) 到達目標、学修成果については、学生が理解できることに止まらず、理解したことを表現できると(記述、口頭、図解などさまざまな手段で表現できること)を目指す

3. 教育の方法（理念や目的を達成するために、どのように実践しているのか）

- 1) 全ての担当科目（複数担当者による研究室単位の科目を除く）において、第 1 回授業のオリエンテーション時に「科目のディプロマポリシー（学位授与の方針【学修成果】・カリキュラムツリー・カリキュラムマップとの関連性）」「授業の概要・目的」、「自己点検・分析項目」「全 15 回（通年科目は 30 回）の授業計画」「評価項目と割合」「成績評価基準および昨年度の成績分布」「期末レポート等の出題概要」「科目責任者の研究室・オフィスアワー・連絡手段」を、配布物とともに説明している。同時に、コマ毎ならびに最終コマにおける授業全体のふり返し方法を説明している
- 2) 毎回の授業開始時に、①当日の進行、②「基本目標」「到達目標」における該当回の位置づけ、授業内での経過確認と授業終了時のふり返し方法を示している
- 3) キャリア科目と秘書士科目、リベラルアーツ科目において *3、セメスターごとに 2 回ないし 3 回、グループワーク（ペアワーク含む）を実施している。このグループワークのふり返し内容については Forms による集計により、単にグループ（ペア含む）間だけでなく、全受講学生が閲覧をすることで情報共有できるように配慮している。
- 4) 研究室単位の科目、秘書士科目 *3 において、プレゼンテーションのリハーサルと発表で、録画によるふり返しを伴う演習を実施している
- 5) 「秘書実務」*4 でのプレゼンテーション評価についてはループリックを使用しているが、授業担当者による成績評価とは別に、学生自身による自己評価も同一ループリックで実施し、グループワークによるふり返しに使用している

*3 「キャリアプランニング」「秘書学概論」「秘書実務」「ビジネス文書」においてグループワークを実施

*4 「秘書実務」においてリハーサルも含めて録画によるふり返しを実施

4. 教育の成果（教育の方法を行った結果、どうだったのか）

- 1) 研究室単位の授業以外の全科目において（「3. 教育の方法 *1」参照）、第 1 回および第 15 回終了時に「自己点検・分析シート」を作成させている。理解度の自己評価とその変化・成長に対する自己分析を記入させ、科目の目的・到達目標・学習成果を自ら点検させることを目的としている
- 2) また、コマ毎の授業終了時に「コミュニケーション欄」と称した自由記述欄にコメント・質問を記入した学生全てに、個別または受講学生全体に回答・対応してきた。ただし、この機能はコロナ禍以後 Teams に移行しつつあると感じられるため、2023 年度においてはコミュニケーション手段そのものを再度検討する予定である
- 3) 学生からの「アナログ連絡欄」「自己点検・分析シート」「授業改善アンケート」等におけるコメント抜粋（原文のまま）

① キャリアプランニング（食物栄養 1 年 55 期生）2024 年度

- * 私は明確に 10 年後を考えることはなかったので、具体的に栄養士として信頼される存在として勤務し、後に管理栄養士の資格を取得し、地域や職場で健康改善を支援、患者や利用者一人一人に寄り添った栄養管理を提供できると考えることができた
- * インターンシップの経験や先輩方の話を聞いて、自分がどう働きたいかを考えるようになった、友人たちとも積極的に話すようになり、考える機会が増えた。面接が間近に迫っていると意識するようになった
- * 授業時に、先生や卒業生の方が来てくださり、お話を聞いた時、今まで見えなかった自分の未来が見えた気がしました。そこから、自分の就きたい職業について調べ、かなり現実的に考えることができるようになりました。あいまいだった自分をはっきりとさせてくれた授業であったなと思います、成長したなと感じました。
- * 今まで自分の趣味・特技について関心を持っていなかったが、履歴書作成のために見つめ直したとき、自分には、沢山趣味や特技があるのだと見つけ出すことができた。頭だけで考えずに、紙に書き出したことで広げていくことができた。
- * 目指すべき職業人像については、授業で行ったもぎ試験の際に具体的にどのような職場につきたいか、どのような人になりたいのか、などを考えることができました。また、自己 PR は一番大切だと分かっているにもかかわらず PR の点が見つからなかったけれど、授業で行ったチャートを使って自分の悪いと思っていたところを強みへ変えることができました

② 人間と文学（食物栄養 1・2 年，幼児保育 2 年，経営法学 2・3・4 年，看護 2 年）2024 年度

- * 保本登の物語は，挫折や葛藤の中で成長する重要性を教えてくれる。理想を追い求めつつ，現実を受け入れ，他者との関わりを通じて自己を高めていく彼の姿勢は，私自身が目指すべき生き方だと感じた。自分自身を見つめ直す機会を得ることが出来て良かった。
- * 保本登がこの作品に登場する人物たちの中で導入から終わりにかけて最も成長した人物であることに気づいたのがすごいと思った。赤ひげも保本と行動を共にしていたことで医学面だけでなく、他の面も成長したように思う。
- * 『赤ひげ診療譚』における保本登への共感，自分自身の価値観や成長のプロセスが反映された結果であるといえる。似たような境遇の保本を通じ，困難の中でも意義を見出し，乗り越えることで自分を高めるという理想を改めて認識するきっかけとなった。
- * 15 回の授業ありがとうございました。資料など見やすく，グループワークのおかげで自分だけではなく，他の人との意見を共有できたことが良かったと思いました
- * 『赤ひげ診療譚』，保本登の成長を通じて私自身の未熟さや可能性を映し出した。「文学は自分学である」という言葉通り，物語と登場人物を鏡として内面を見つめることで，自分をより深く理解できたと感じている。保本登が理想と現実の間で葛藤しながら成長する姿は，私にとって「人間としてどう生きるか」を問い直す手がかりとなった。この学びを胸に，現実と向き合いたい。
- * 最初は出世だけを考えていた保本が，やがて人を救うという医療の本質に目覚め，失敗や試練を他人や環境のせいにするのではなく，未熟さを認め，変わろうと努力する保本の姿が，部活動で何でもできと思っていた私がチームメイトや先輩のアドバイスなどをもとに成長し変わろうとする姿と重なりました。
- * 私は「新出去定」のような人間に成長したいと願う，志の高い青二才なのだと，この物語を通じて感じた。誰よりも荒みながらも，弱い己を受け入れられ，誰かの為になれる人間になりたいと強く願っている，芯の強い青二才なのだと，この物語を通して実感した。

③ 秘書実務（秘書士：食物栄養 2 年 54 期生／上級秘書士：経営法学 2 年）2024 年度

- * これまでに何度も人前で発表してきた経験があったので，人並み程度にはできるだろうと思っていたが，映像で自分の姿を確認したところ，気を抜いて細部まで配慮できていないことに気付いた。本番ではそれをふまえて直すことができたが，やはり何かをする前に，その環境と場面に応じた行動ができるか確認することが大切だと感じた。
- * アルバイトでホールを担当しているので，ある程度は接客応対もできていると思っていたが，ポイントを学習した結果，自分のやり方と正式なやり方に違いがあることを発見した。以前から持っていた知識に加え，学習した正式な方法（挨拶やお茶の出し方等）を公私にかかわらず活用してみたところ，相手の気分が良さそうだったので，今後も続けていきたいと思う。
- * 第一印象を決めるものは清潔感など見た目，視覚からの情報がいちばん大きい。外部の人と会う時に，髪がボサボサであったりメイクが濃い，ネイルが派手などという状態だと，第一印象が良くないし，自分の会社の印象を悪くしてしまうから，きちんとした見た目が大切だと思った。他社の人と会う時は自分が代表だという気持ちが大事だと思った。
- * 自分で電話応対ができる方だと思っていたが，授業を受けると不足していた部分が浮き掘りになった（メモのとり方など）。その点に関して学ぶことができたので成長ととらえている。現代の連絡方法はメールの方が多くはないかと感じるが，電話でのやりとりも少なからずあると思うので，言葉遣いやメモのとり方など，学習したポイントを活用していきたいと思う。
- * 冠婚葬祭の意味をきちんと理解できていなかったけど，それぞれの漢字が何を表すのかわかった。贈答については，のしの種類や名前を書く順番にも気をつけなければいけないこと，おくる用途によって，渡さない方がいいものがあることを知った。
- * 俳句を読むのは小学生ぶりだったので懐かしい気持ちになった。授業はあと 1 回ですが，今年もよろしく願いいたします！

4) 評価方法・成果に対する課題

学生自身による「自己点検・分析シート」は、自ら問題点を発見し学ぶという学習態度への気づきには一定の成果を期待することができる。だが、基本は主観的な振り返り手段であるため、何かしらの客観的・絶対的な評価方法・基準の併用については、今後も引き続き検討する必要がある

5. 今後の目標

1) 短期目標

「自己点検・分析シート」で科目ごとに「到達目標」10項目の振り返りを実施してはいるが、学生本人の振り返り手段に止まっている。今後はこれらの項目を、シラバス段階ではディプロマポリシーと、授業段階では評価項目との連動を念頭に、再度、授業計画と評価のシステムを見直したい。検討の経過・成果については学科内学術懇談会や研究紀要にて発表し、学科教員との情報共有・問題共有を図りたい

2) 中期目標

「相手に合ったコミュニケーションをとることができる栄養士」を育てることを目指すとする自己の理念・目的をふまえ、単に進路の選択と結果（内定）に止まらず、他科目（特に「特別研究」）における成果の連携手法について検討したい

6. その他

- 1) 学内においては、短期目標・中期目標の成果を毎年度、研究紀要に記録として残すことで、継続的に関係教職員と共有したい
- 2) 学外においては、所属学会における実践事例報告や研究発表を目指したい

7. 根拠資料

- 1) シラバス
- 2) オリエンテーション資料
- 3) 自己点検・分析シート
- 4) アナログ連絡欄シート
- 5) 授業改善アンケート
- 6) 期末レポート（キャリアプランニング，人間と文学，ビジネス文書）
- 7) プレゼンテーション録画映像・スライド（秘書実務）